

根域制限マルチ栽培＋点滴かんがいによる高品質みかん栽培 －宝財原かんきつ生産組合－

経営体の概要

設立年度：昭和46年
 基幹作物：温州みかん、日向夏、ポンカン、はるみ
 経営面積：9ha(すべて受益地)
 農家戸数：5戸

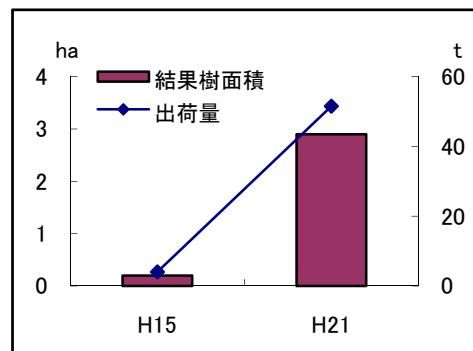
取組の経緯と営農転換のポイント等

本組合は、昭和46年から温州みかん栽培を開始し、現在は極早生みかんを中心としてかんきつ類の生産を行っている。事業実施以前は、丘陵地の多い柑橘園において、かんがい用水の確保や防除作業に多くの労力を要していたが、平成4年にかんがい用水の供用が開始されて以降は、スプリンクラーを活用して防除や葉面散布を実施するなど、栽培管理作業が省力化された。また、温州みかんの極早生栽培では、根域制限マルチ栽培と点滴かんがいを組み合わせた栽培方法に取り組み、ブランドみかんの生産拡大による経営の向上を図っている。

営農改善のポイント

①栽培技術の確立・向上

糖度をあげるため、土壌を乾燥させ水分ストレスをかける根域制限マルチ栽培を導入したが、クエン酸も高くなることが課題となっていた。適期に適量のかん水を行う点滴かんがいを組み合わせることで、品質低下を招くことなくクエン酸を下げられることが明らかになったことから、改植を行う度にこの栽培方法による面積を拡大している。



根域制限マルチ栽培みかんの結果樹面積・生産量の推移

②省力化

事業実施前の病害虫防除作業は、タンクに溜めた雨水を運搬し、手散布により薬剤を散布していたが、事業実施後は、スピードスプレー(SS)による防除が可能となり、防除に要する時間が5割以上軽減され、作業の大幅な省力化が図られた。また、夏期の黒点病防除にはスプリンクラーを使用することで、SSよりもさらに短時間(1/4程度)での防除が可能となり、炎天下での作業が軽減された。



上：極早生みかんの根域制限マルチ栽培

③流通・販売の工夫

糖度を高めた極早生みかんを有利に販売するため、糖度10.5以上、クエン酸1%以下のものを、平成21年度より「陽蜜(ひみつ)」というブランド名で販売(価格は一般極早生みかんの3～4割高)し、県内をはじめ全国各地に出荷している。

右：ブランドみかん「陽蜜(ひみつ)」



事業概要

事業種 国営かんがい排水事業
 関係市 西都市、高鍋町、新富町、木城町
 受益面積 3547ha
 事業期間 昭和47年度～昭和63年度
 事業目的 畑地かんがい、用水改良

位置図



<問い合わせ先>

九州農政局資源課
 TEL:096-211-4662
 (内:4666)

(平成22年調査時点)